

骨子 (案)

第 5 章 地方の振興方向

第 1 節	県北地方	1
第 2 節	県中地方	3
第 3 節	県南地方	5
第 4 節	会津地方	7
第 5 節	南会津地方	9
第 6 節	相双地方	11
第 7 節	いわき地方	13

※下線部分→修正・加筆等した部分

1 第1節 県北地方

3 「(仮) くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍と農林業の持続的な発展」

5 ■振興方向

7 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興の加速化

8 **川俣町山木屋地区**では農地の保全管理から**本格的な営農再開の加速化**。**安全・安心な農林産物の提供**に向けた取組の推進。

10 (2) 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

11 地域農林業の**担い手の確保・育成**。効率的かつ持続的な農林業経営の実現に向けた**生産基盤の強化**。

13 (3) 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進

14 おいしさや品質の高さの**PR**。**ブランディング**の推進。輸出を含め**販路拡大**。

15 (4) 豊かな農山村の形成と活性化

16 森林の持つ**多面的機能の発揮**。農山村の魅力（自然・食・暮らし・人）等の**地域資源を活かした活動**の推進。

18 ■重点的な取組内容

20 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興の加速化

21 【現状と課題】

22 ○川俣町山木屋地区では営農再開に向けた様々な取組に支援が必要。

23 ○急傾斜牧草地や里山等の除染、ため池の底質土の放射性物質対策が必要。除染に係る土壌等の仮置き場となっていたほ場の原状回復が課題。

24 ○正確な情報発信、安全な流通体制の堅持、ユズやきのこなど出荷制限等の解除に向けた取組が必要

27 【具体的な取組】

28 ○川俣町山木屋地区のほ場整備、水稻や飼料作物など土地利用型作物の作付拡大、トルコギキョウやミニトマトなどの花き・野菜類の栽培管理の技術支援、山木屋在来そば等の地域特産品の振興。

30 ○ため池等の放射性物質対策の推進。仮置き場となっていた農地の用排水路整備など原状回復の推進。

31 ○森林整備と放射性物質対策の一体的な推進と里山の再生。

32 ○農林産物の出荷制限の解除促進、安全な農林産物の生産、出荷・販売の推進。

35 (2) 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化

36 【現状と課題】

37 ○県北地方の新規就農は年間約20名、果樹栽培農家や法人経営体に就農するケースが多い。雇用就農から自立就農へのステップアップに支援が必要。

38 ○果樹の計画的な改植。異常気象対策として施設化・灌水設備の導入など生産基盤強化が必要。

39 ○酪農、和牛繁殖では省力化や法人での安定雇用、耕畜連携による飼料基盤の確保が必要。

40 ○小区画の水田等が多く、農業水利施設も老朽化。計画的な整備と防災機能の強化が必要。

- 1 ○林業就業者の確保・育成と雇用の改善が必要。
- 2 ○森林整備や木材搬出作業の効率化、素材（丸太）の需要創出が必要。
- 3 **【具体的な取組】**
- 4 ○地域性を踏まえた規就農者の技術習得や農地確保の支援。経営改善に資する認
- 5 証GAPの取得推進。
- 6 ○スマート農業等の導入による規模拡大・省力化及び施設化の推進、老朽樹園地
- 7 の改植や灌水設備の整備、担い手への園地集積。
- 8 ○畜産経営へICTの導入による省力化。GAP推進による雇用環境整備。耕畜連携に
- 9 による飼料生産の促進。
- 10 ○ほ場整備の計画的な推進。農業水利施設の補修・更新。
- 11 ○作業の機械化や雇用環境の改善による新規林業就業者の確保及び定着。
- 12 ○林内路網の整備と高性能林業機械の導入による素材供給体制の確立と県産材の
- 13 利用推進。
- 14 **(3) 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進**
- 15 **【現状と課題】**
- 16 ○安全性・おいしさや品質の良さをPRし、輸出など含めて販路の拡大が必要。
- 17 ○県産材の安全性をPR、流通の安定化を図る必要。
- 18 ○ブランディングによる魅力ある県産品の販売促進に向けた取組が必要。
- 19 **【具体的な取組】**
- 20 ○認証GAPの取得推進、認証GAPやHACCP等に関する生産者・消費者の理解促進、農
- 21 林産物の輸出など販路拡大。有機農業の技術向上・販売促進に向けた取組支援。
- 22 ○県産材の適正な放射線量の測定や、供給安定化を推進。
- 23 ○県オリジナル品種「福、笑い」・「ふくふくしめじ」などの導入によるブランデ
- 24 イング。
- 25 **(4) 豊かな農山村の形成と活性化**
- 26 **【現状と課題】**
- 27 ○農山村の維持・保全管理が高齢化等により地域だけで行うことが困難。
- 28 ○森林の多面的機能の維持・強化を図り、災害を未然に防ぐ取組が必要。
- 29 ○鳥獣被害防止対策の推進が必要。
- 30 ○交流人口が減少、農山村の魅力向上と情報発信が課題。
- 31 ○地域農林産物を活用した地域産業6次化など販売力強化と地域の活性化が必要。
- 32 **【具体的な取組】**
- 33 ○農山村の維持管理の体制づくり。
- 34 ○計画的な保安林の指定、治山事業による適切な森林整備。
- 35 ○地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策の推進。
- 36 ○教育旅行や都市住民との交流の促進。森林を活用した交流の推進。
- 37 ○地域産業6次化の推進。

1 第2節 県中地方

2 「(仮) 多彩なひと・もの・地域を育み未来へ繋ぐ、
3 持続可能な県央の農林水産業」
4

5 ■振興方向

7 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興の加速化

8 **田村市都路町**における被災農林業者の**活動再開**や**復興の加速化**。

9 (2) 農林業の担い手の確保・育成と生産基盤の整備

10 幅広い**担い手の確保・育成**。農地や森林等の**生産基盤の整備**。

11 (3) 産地体制の強化と農林水産物の魅力向上・発信による需要の創出

12 **産地体制**や**産地競争力を強化**。消費者から**選ばれる産地づくり**の推進。

13 (4) 豊かで活力ある農山村の形成

14 農山村の**地域環境**や**コミュニティの維持・向上**。豊かな**地域資源の活用**や都市
15 農村交流活動等を通じた**地域の活性化**の促進。

16 ■重点的な取組内容

18 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興の加速化

19 【現状と課題】

20 ○田村市都路町の水稲作付面積は震災前の約7割、営農再開に向けた支援が必要。

21 ○田村市都路町を含む阿武隈山地では、林業生産に向けた支援と放射性物質対策
22 が必要。

23 【具体的な取組】

24 ○農地整備の推進、農業用機械や家畜等の導入、施設の整備、新たな担い手の確
25 保による、安定した生産体制の確立。

26 ○加工・販路拡大の支援など総合的な風評対策の推進。

27 ○森林整備と放射性物質対策を一体的に推進。

28 (2) 農林業の担い手の確保・育成と生産基盤の整備

29 【現状と課題】

30 ○新規就業者を始め、幅広い担い手の確保・育成が課題。

31 ○収益性の高い経営実現のため、経営改善支援や経営安定化を図る。

32 ○中山間地域を中心とした生産基盤の確保や整備を実施。

33 【具体的な取組】

34 ○広域的な担い手確保体制の整備や就業サポート体制の強化、新規就農者への技
35 術支援活動の展開。

36 ○多様な担い手の確保・育成、集落営農組織や法人経営体の育成、企業等の農業
37 参入や農福連携を支援。

38 ○林業研修施設等の積極的な活用により新たな林業の担い手の確保・育成、林業
39 事業体への雇用創出を推進。

40 ○農林業者の経営改善計画の策定やフォローアップの強化、労力調整システムの
41 運営支援による労働力の安定確保、経営継承の支援。

42 ○担い手への農地集積、スマート農業に対応した農業生産基盤の計画的な整備、
43 機能保全計画策定による農業水利施設等の長寿命化の推進。

- 1 ○森林の路網整備を推進。
- 2 **(3) 産地体制の強化と農林水産物の魅力向上・発信による需要の創出**
- 3 **【現状と課題】**
- 4 ○食の安全・安心や消費者からの信頼を確保する継続的な取組が必要。
- 5 ○施設化や先端技術の導入等による産地体制の維持・強化を図る。
- 6 ○県産農林水産物の魅力向上・発信を推進し、選ばれる産地づくり等を促進。
- 7 ○第三者認証GAPを始め、消費者から信頼される産地づくりなど産地競争力の
- 8 強化を推進。
- 9 **【具体的な取組】**
- 10 ○放射性物質検査の実施、モニタリング結果の迅速な情報発信。
- 11 ○水田のフル活用、環境制御技術の導入による園芸作物栽培、効率的な飼養管理
- 12 による畜産振興、きのこと栽培技術の確立・普及、木材の加工技術開発・加工機
- 13 械整備、内水面養殖技術の開発・普及等の推進。
- 14 ○あさか舞や天栄米等のブランド化の推進、「県中地方ならではの」の農林水産物
- 15 の魅力発信や販売PR、地産地消の推進。
- 16 ○第三者認証GAPの取得促進による品質の向上や安定化、有機農業等の推進。
- 17 **(4) 豊かで活力ある農山村の形成**
- 18 **【現状と課題】**
- 19 ○過疎化・高齢化等によって地域の保安全管理が困難になり集落機能が低下。
- 20 ○食や農林業等への理解促進、農山村や森林が有する多面的機能の発揮に向けた
- 21 農林道の整備、生活環境の保全等が必要。
- 22 ○豊かな地域資源の活用、都市住民等との交流促進が必要。
- 23 **【具体的な取組】**
- 24 ○食育や森林づくり意識醸成活動の推進、集落排水処理施設や防災安全施設等の
- 25 整備、治山施設や農林道の整備・維持保全、日本型直接支払制度の活用などの
- 26 推進。
- 27 ○地域ぐるみの総合的な鳥獣被害軽減対策を促進。
- 28 ○農業用水路、ダム、ため池及び保安林整備による防災・減災対策を推進。
- 29 ○県中地方・地域産業6次化ネットワークの拡大、商品開発や販売促進の支援。
- 30 ○グリーン・ツーリズムや都市農村交流活動の促進。
- 31
- 32

1 第3節 県南地方

2 「(仮) 清流が育む、豊かな未来を拓く県南の農林業」

3 ■振興方向

6 (1) 多様な担い手の育成と発展を支える生産基盤の強化

7 地域を支える意欲ある多様な担い手の育成と所得の安定的な確保。次の世代に継
8 承されるよう生産基盤の強化。

9 (2) 安全で質の高い農林産物の供給

10 安全・安心な農林産物を環境にも配慮しながら安定的に生産する体制の構築。市
11 場ニーズを捉えた質の高い農林産物の生産。

12 (3) 活力と魅力ある農山村の形成

13 農林業及び農山村が有する多面的機能の維持。様々な地域資源を活かした地域産
14 業6次化の促進、都市住民との交流。

15 ■重点的な取組内容

17 (1) 多様な担い手の育成と発展を支える生産基盤の強化

18 【現状と課題】

- 19 ○安定した担い手の確保・育成が必要。
- 20 ○地域を支える担い手が所得を安定的に確保する必要。
- 21 ○農林業の生産の拡大、森林の適正管理を進めていく必要。

22 【具体的な取組】

- 23 ○就農相談やフォローアップによる就業しやすい環境づくりと定着の向上を図る
24 取組の推進。
- 25 ○新技術導入や生産工程管理の取得推進により、経営感覚に優れた多様な担い手
26 を育成。
- 27 ○林業の現場見学会等の実施により、林業事業者の新規雇用を促進、森林経営管
28 理を担う人材の育成。
- 29 ○担い手への農地の集積・集約、大規模経営や省力・低コスト技術の導入。
- 30 ○農地の大区画化と集積・集約化を加速し経営基盤を強化。
- 31 ○森林施業に必要な林道等の路網整備を促進、森林の経営管理による施業の集約
32 化と高性能林業機械の導入。
- 33 ○計画的な主伐や年間を通じた利用間伐の実施による森林の適正管理。

34 (2) 安全で質の高い農林産物の供給

35 【現状と課題】

- 36 ○放射性物質モニタリング検査の継続、認証GAPや畜産HACCP等の生産工
37 程管理の取組を拡大する必要。
- 38 ○主食用米生産のみならず多様な水稻生産を支援していく必要。
- 39 ○園芸品目では、先端技術の導入等により安定した質の高い生産を支援していく
40 必要。
- 41 ○畜産では、高齢化により生産農家が減少、肉用牛繁殖の生産基盤の維持が課題。
- 42 ○消費者ニーズにあった農林産物の供給、地産地消を推進する農産物直売所、食
43 品産業と連携した農林産物の生産等の取組を拡大する必要。

- 1 ○木材の安定供給体制の整備を進め、県産材の安定供給に取り組む必要。
 2 ○環境と共生する農業や地域資源の有効活用を進める必要。
- 3 **【具体的な取組】**
- 4 ○放射性物質モニタリング検査の継続、安全・安心な農林水産物供給に向けた産
 5 地の取組を消費者へ情報提供、認証GAPやHACCP等の取得拡大により県
 6 産農林産物の安全性の確保。
- 7 ○様々な需要に対応した売れる米づくりの推進、稲WCS等の栽培管理技術向上
 8 の支援及び作業受託組織の運営支援による適期作業の推進。
- 9 ○園芸作物の先端技術を実証しながら生産現場への導入を推進。
- 10 ○肉用牛繁殖農家の飼養管理技術の向上と規模拡大。
- 11 ○これまでに培われた様々なネットワークの他、食品産業と連携して、農林産物
 12 や加工品の知名度向上、イメージアップの推進。
- 13 ○ICT等の技術を活用しながら多様なニーズに対応できる素材流通体制の整備。
- 14 ○環境に配慮した持続性の高い農林業の推進。
- 15 **(3) 活力と魅力ある農山村の形成**
- 16 **【現状と課題】**
- 17 ○農業者が減少する中で農山村環境の維持・保全が課題。
 18 ○県民参加の森林（もり）づくりをさらに推進していく必要。
 19 ○災害に強い農山村を形成する必要。
 20 ○地域一体となった鳥獣被害防止の取組が必要。
 21 ○地域産業6次化や都市住民との交流を促進し農山村を活性化する必要。
- 22 **【具体的な取組】**
- 23 ○多面的機能支払交付金を活用する地区の維持・拡大、地域の共同活動により農
 24 用地、農道、水路等を適切に管理する取組の推進。
- 25 ○森林環境基金事業等を活用して森林所有者等による森林整備を促進。
- 26 ○植樹・育林活動など県民参加の森林（もり）づくりの推進。
- 27 ○農業用ダムやため池などの防災・減災対策、山地災害防止のため治山施設整備
 28 を推進。
- 29 ○鳥獣被害防止対策を総合的に組み合わせた地域ぐるみの取組を推進。
- 30 ○農林水産業者、商工業者、食品関連事業者、観光関連業者等が連携したネット
 31 ワークによる新たな商品づくりや特産品の販路拡大の推進。
- 32 ○教育旅行をはじめとした都市住民との多様な交流拡大を推進、農業・農村体験
 33 や森林（もり）づくり活動等による農山村地域の活性化。
 34
 35

1 第4節 会津地方

3 「(仮)「誇り」と「匠の技」できらめく会津の農林水産業」

4 ■振興方向

6 (1) 地域をリードする担い手の確保・育成と生産基盤の強化

7 **新規従事者への重点的な支援。担い手の確保と経営の安定化。**農地や林道など生
8 **産基盤の整備。**担い手への農用地利用・集積による**大規模化や法人化。スマート農**
9 **業やスマート林業**の導入による省力化。

10 (2) 収益性が高く競争力のある産地づくり

11 **高品質で収益性の高い農林業**を推進。

12 (3) 資源を守り生かす、活力ある農山村の形成

13 **自然災害に強い農業用施設**の導入、**鳥獣害に強い地域づくり、地域資源の有効活**
14 **用や森林資源の循環利用**を促進し、地域の農林業を活性化。地域が行う森林や農村
15 が持つ**多面的機能の維持・保全活動**の推進。

16 ■重点的な取組内容

18 (1) 地域をリードする担い手の確保・育成と生産基盤の強化

19 【現状と課題】

20 ○法人化による規模拡大が進んでいるが、担い手の減少によって耕作面積も減少。

21 ○毎年50名前後の新規就農者が確保されているが、栽培技術が未熟なため経営が
22 不安定。

23 ○経営耕地の分散や農業水利施設の維持管理労力の増大が、経営規模拡大や収益
24 性向上の大きな障害。

25 ○所有者の高齢化と木材価格の低迷等により林業の生産性が低迷。

26 【具体的な取組】

27 ○人・農地プランの実質化を支援、担い手の規模拡大による経営の効率化や法人
28 化を推進。

29 ○新規就農者の受入体制づくりや新たな雇用の創出に向けた経営体質強化を推進。

30 ○就業に向けた情報発信、各種支援策の活用や経営の安定化に向けた栽培技術指
31 導など重点的な支援を展開。

32 ○先端技術の導入による労働生産性の向上。高性能作業機の導入に必要となる農
33 地の改善や農業水利施設の維持管理の省力化の推進。

34 ○間伐や主伐・再造林による森林整備の加速化。路網整備の推進。

35 (2) 収益性が高く競争力のある産地づくり

36 【現状と課題】

37 ○食味で優位であった会津産米も需要に応じた生産が必要。収益性の高い園芸品
38 目等への転換を一層進め、経営の安定化と労働力の分散を図る必要。

39 ○さらなる園芸産地の拡大や新たな広域集出荷体制を早期に構築する必要。

40 ○畜産は中小規模の複合経営が多く、畜産部門の生産体制の強化を図る必要。

41 ○出荷制限されているきのこや山菜、きのこ原木等は生産が停滞。

42 ○輸出も含めた販路の拡大やブランドイメージの向上を図る必要。

43 ○県内屈指の観光地であることから、多くの観光客に向けて会津産農林産物の魅

力を発信する必要。

【具体的な取組】

- 稲作では、GAPの推進や県オリジナル品種の導入による競争力の強化。付加価値の高い主食用米と高収益作物の組み合わせなど戦略的な複合経営の推進。
- 園芸品目では、新たに整備される広域集出荷施設を核とした流通体制の構築、先端技術を活用した生産性の向上。
- 畜産では、市町村の枠を超えた経営体の連携を進め、経営規模の拡大や生産性向上、畜産環境問題への対策を推進。
- 山菜・きのこでは、安全性の確認と出荷制限の解除に向けた取組を強化、マニュアルに基づき栽培を指導。きのこ原木林は原木林再生に向けた取組を推進。
- 米や「会津身不知」柿など特色ある会津産農林産物の輸出を促進。オンラインショップの活用や農産物の6次化などによる販路の多様化と拡大を推進。
- 有機農産物生産の安定化や省力化を図る新技術の導入や機械化を推進。
- 観光業での会津産農林水産物の利活用を推進。贈答用など需要の増加につながる取組を推進。

(3) 資源を守り生かす、活力ある農山村の形成

【現状と課題】

- 市町村や関係機関が連携した広域的な有害鳥獣対策の実施が必要。
- 頻発・激甚化する自然災害への防災・減災の取組を進めていく必要。
- 地域農業を保全する共同活動が停滞し、人材の確保や育成、地域住民の活力向上が課題。
- 地域特産の農林水産物の生産量の確保や収益性の向上が課題。
- 森林資源を、環境に優しい循環型の材料として建築はもとより、木質バイオマス等の再生可能エネルギーへ利活用を進めていく必要。
- 水源涵養や土砂災害防止等、森林の持つ多面的機能を十分発揮させていく必要。

【具体的な取組】

- 鳥獣害防止対策の実施に向けた地域リーダーの育成、総合的かつ集落ぐるみの鳥獣害防止対策の推進。会津全域での情報共有、広域的な対策を講じるための市町村の連携強化を推進。
- 収入保険等のセーフティネットの活用を推進。地域共同活動組織の支援を通じて、ため池のハザードマップや土砂災害危険地マップの周知。
- グリーン・ツーリズムの推進、地域外住民との交流を推進。
- 地域特産農林水産物の生産者の確保や栽培技術の向上による生産量の確保、加工品への利用を推進。
- 森林資源を建築物や木製品としての利用の他、木質バイオマス等再生可能エネルギーとしての有効利用を推進。
- 計画的な保安林の指定や治山施設の整備、松くい虫等の病虫獣害対策の推進。

1 第5節 南会津地方

2 「(仮) 活力ある農林業と人の交流が織りなす、輝く南会津」

3 ■振興方向

6 (1) 農林業の持続的な発展を支える基盤の強化

7 地域農林業の核となる担い手を確保・育成。地域農林業の生産基盤を強化。

8 (2) 安全で魅力的な農林産物の供給

9 地域農林産物の信頼確保とブランド力の強化。産地の生産力強化と維持・発展。

10 豊かな森林資源の循環利用。

11 (3) 活力と魅力のある農山村づくり

12 集落営農の推進による効果的な鳥獣被害対策を支援。住民参画の森林づくり等を
13 推進し森林・林業への意識を醸成。森林整備等の取組により森林の多面的機能の確
14 保。農産物加工の支援と6次産業化を推進。着地型観光に対応した農山村生活体験
15 の受入体制整備や質的向上。

16 ■重点的な取組内容

18 (1) 農林業の持続的な発展を支える基盤の強化

19 【現状と課題】

20 ○地域農業をけん引する担い手の確保が困難。

21 ○水路・農道等の老朽化、それら施設の維持管理の粗放化が課題。

22 ○農業者の労力軽減と農業の生産性向上を図る必要。

23 ○木材価格の低迷、林業従事者の高齢化や減少等により林業生産活動が停滞。

24 【具体的な取組】

25 ○新規就農者や定年帰農者等を認定農業者へ誘導しながら、地域農業を担う経営
26 体の確保・育成。

27 ○ほ場の大区画化や汎用化による基盤整備を推進。

28 ○担い手への農地集積や高収益作物の導入促進、人・農地プランの実質化により、
29 大規模経営体などの担い手が育つ営農環境を構築。

30 ○老朽化した施設の計画的な保全・更新による農道や農業水利施設の安定的な機
31 能発揮及び長寿命化の推進。

32 ○林業担い手の確保・育成、林業事業体の経営基盤強化の推進。林内路網整備や
33 高性能林業機械導入等による林業基盤整備を推進。

34 (2) 安全で魅力的な農林産物の供給

35 【現状と課題】

36 ○安全・安心で環境に配慮した農産物への需要が高まっていることから、第三者
37 認証GAPの認証面積の拡大が必要。

38 ○担い手不足が深刻化し、産地の維持がより困難な状況。

39 ○震災前の価格水準に回復させるため、安全性の正確な情報の発信とおいしさな
40 どの魅力をPRする必要。一部の野生山菜・きのこの出荷制限解除に向けた継続
41 的な取組が必要。

42 ○森林資源の利活用を図る必要。

43

1 **【具体的な取組】**

- 2 ○各生産部会を中心に第三者認証GAPの取組を推進。
 3 ○高位安定生産による産地の維持・発展の推進。
 4 ○計画的なモニタリング調査や直売所等への出荷管理指導。野生山菜・きのこの
 5 出荷制限解除に向けた取組。
 6 ○施業の集約化、主伐・再生林の促進により、森林整備や地域の特徴的なカラマ
 7 ツや広葉樹などの地域材活用を推進。

8 **(3) 活力と魅力のある農山村づくり**9 **【現状と課題】**

- 10 ○全域で鳥獣被害が深刻化し、集落ぐるみの鳥獣被害対策が必要。
 11 ○効率的な営農のための基盤づくりと生活環境基盤や防災機能の強化を図る必要。
 12 ○県民の森林づくりに対する意識醸成を図る必要。
 13 ○災害に強い森林づくりを進める必要。
 14 ○直売所・加工所は小規模経営が多いことから、売れる商品づくりのためさらな
 15 る支援が必要。
 16 ○教育旅行受入者数の増加に向けた対策を講じる必要。

17 **【具体的な取組】**

- 18 ○集落営農の推進を図り、集落ぐるみでの鳥獣被害対策を支援。
 19 ○用水の安定確保や耕作条件の改善、集落の安全確保や生活環境の整備を一体的
 20 に推進。
 21 ○ため池等農業水利施設の点検や維持管理等の推進。
 22 ○幼少期からの木育や小中学校における森林環境学習を推進。森林ボランティア
 23 等による森林づくり活動を推進。
 24 ○適正な森林整備と計画的な治山事業の実施。
 25 ○売れる加工品や6次化新商品の開発を推進、農林産物の販路・消費拡大のため
 26 の取組を推進。
 27 ○さらなる教育旅行の誘致や農家民宿の開設を推進。
 28
 29

1 第6節 相双地方

2 「(仮) 相双地方ならではの農林水産業の再生を目指して
3
4 ~地域に寄り添った復興の推進~」

5 ■振興方向

7 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興

8 地域の状況に応じた**生産基盤の復旧**と**農林水産業の再生**、**農林漁業者への支援**、
9 **水揚量の拡大**、**風評の払拭**を推進。

10 (2) 持続的な発展を支える生産基盤の整備と担い手の確保

11 特色ある農林水産業を展開するため、**生産基盤の整備**、農林水産業の**担い手の確**
12 **保・育成**、**経営の安定・強化**を推進。

13 (3) 地域の特性を生かした産地づくり

14 販路を見据え、**地域に合った品目の産地化とその拡大**、収益性の高い農林水産業
15 を実現するため、**生産力・競争力強化**、生産振興、**販路の回復・拡大**を推進。

16 (4) 地域の特性を生かした農山漁村の形成

17 ため池の**防災減災対策**等の整備、農村地域の共同活動・森林整備等による**多面的**
18 **機能の発揮**、**鳥獣被害対策**、地域資源や人的資源の発揮による**新たな価値の創造**な
19 などを推進。

20 ■重点的な取組内容

22 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興

23 【現状と課題】

24 ○避難指示が解除されていない地域では、農地・農林水産業施設の復旧に着手で
25 きないことに加え、避難指示の解除から間もない地域においては、生業として
26 の農林水産業の再開が十分に進んでいない状況。

27 【具体的な取組】

28 ○避難指示解除や特定復興再生拠点整備の進捗に応じた農地・農林水産業施設の
29 復旧、地域営農再開ビジョンの策定、地域に応じた営農体制の構築、農林水産
30 業の再開を目指す方への施設整備、森林整備、素材生産の拡大等の支援を推進。

31 ○水揚量の拡大及び早期の沿岸漁業の再開に向けた漁業者、漁協、流通業者等
32 による協議を促進。事業休止中の内水面漁協等の事業再開、サケ増殖事業の再開
33 ・拡大を支援。

34 (2) 持続的な発展を支える生産基盤の整備と担い手の確保

35 【現状と課題】

36 ○避難指示が出された地域では、住民の帰還が進んでいない状況にあり、担い手
37 の確保度合いなど、地域差が大きい。

38 ○県内外からの多様な担い手（自営、雇用、企業参入）の確保・育成、経営の体
39 質強化、住民の帰還を促すための地域の受け入れ体制整備と定着に向けた支援
40 が必要。

41 【具体的な取組】

42 ○農用地利用改善団体の設立や人・農地プランの策定とその実現に向けた市町村
43 等へ支援。県内外からの多様な担い手の確保・育成、農地の集積を推進。

- 1 ○ほ場整備による大区画化、農業用施設の整備等を推進。
 2 ○新規就業者等の地域への定着と経営の体質強化に向けた取組、将来の就業に繋
 3 げるための体験学習等を推進。
 4 ○林業労働者の確保・育成、高性能林業機械の導入や林道等の路網整備を推進。
 5 ○漁協の青壮年部・女性部活動の活性化、漁業者・水産加工業者の経営安定化の
 6 ために必要な資金の貸付等を推進。

7 (3) 地域の特性を生かした産地づくり

8 【現状と課題】

- 9 ○震災前に生産が盛んであった品目の復興、販路を見据えた新たな産地形成、産
 10 地の信頼性（価値）の向上を図る必要。
 11 ○地域の特性に合わせて生産力・競争力を強化する必要。
 12 ○資源が増加・大型化した多くの魚種の有効利用策の検討が必要。

13 【具体的な取組】

- 14 ○既存産地の復興、新たな産地形成、販売先を踏まえ市町村域を超えた広域的な
 15 生産・出荷体制の構築など、特色ある産地づくりを推進。
 16 ○経営体に応じたスマート農林水産業や省力化技術の導入、経営規模拡大に対応
 17 する生産体系の導入、認証GAPや水産エコラベルの認証取得等を推進。
 18 ○集成材等の製品・技術開発を行う拠点や木質バイオマス資源を利用した施設の
 19 整備支援を通して、管内産はもとより県産材の利用や木材の需要拡大を推進。
 20 ○「常磐もの」や松川浦のアサリ、河川のサケなどのPR、高鮮度化や操業の効率
 21 化等の取組促進。
 22 ○「ふくしま型漁業」の実現に向けた取組を推進。

23 (4) 地域の特性を生かした農山漁村の形成

24 【現状と課題】

- 25 ○農山漁村の多面的機能の発揮、国土強靱化、地域資源や人的資源等の発揮によ
 26 る新たな価値の創造などの取組が必要。
 27 ○鳥獣被害対策は、住民が少ない状況の中でも、総合的な対策を取り組んでいく
 28 必要。
 29 ○農産物加工等は、避難指示解除時期が遅かった地域を中心に、取組を支援して
 30 いく必要。

31 【具体的な取組】

- 32 ○農村地域の共同活動や森林整備、藻場・干潟の保全活動等による多面的機能の
 33 発揮を推進。ため池の防災減災対策や海岸防災林・治山施設の整備による国土
 34 強靱化、先端技術を活用した中山間地域の農地保全等を推進。
 35 ○地域ぐるみでの鳥獣被害対策の徹底、集落機能の回復と地域資源を活用した中
 36 山間地域の活性化、直売所活動の活性化や地域産業6次化の推進による販路の
 37 開拓・拡大を推進。
 38 ○各種イベント、食育活動等の機会やホームページ等の媒体を活用して効果的に
 39 情報発信。

1 第7節 いわき地方

3 「(仮)「サンシャインいわき」笑顔あふれる農林水産業の未来を目指して」

4 ■振興方向

6 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興

7 農林水産業の再生、農林漁業者への支援、水揚量の回復、風評の払拭等の推進。

8 (2) 持続的な発展を支える生産基盤の整備と担い手の確保

9 ICT等のスマート農林水産業の普及、生産基盤の整備、担い手の確保・育成、経営
10 の安定・強化等の推進。

11 (3) 地域の特性を生かした安全・安心な農林水産物の提供

12 安全・安心な農林水産物の生産振興、産地の生産力・競争力強化、販路の回復・
13 拡大等の推進。

14 (4) 地域の特性を生かした農山漁村の形成

15 森林整備、鳥獣被害対策、防災減災対策等の推進。

16 ■重点的な取組内容

18 (1) 東日本大震災及び原子力災害からの復興

19 【現状と課題】

20 ○農地・農林水産業施設の復旧が進んでいるものの、米の価格が全国平均価格を
21 下回り、野生きのこや一部の山菜の出荷制限が続くほか、沿岸漁業と沖合漁業
22 は、水揚量が震災前の水準を大きく下回る状況。

23 【具体的な取組】

24 ○出荷等制限品目の解除に向けたモニタリング検査、安全性に関する正確な情報
25 発信、学校給食での活用、漁業関連施設の復旧の推進。水揚量の拡大及び早期
26 の沿岸漁業の再開に向けた漁業者、漁協、流通業者等による協議促進。

27 (2) 持続的な発展を支える生産基盤の整備と担い手の確保

28 【現状と課題】

29 ○次世代の担い手不足や生産技術の継承が課題となる中、新規就業者等の確保・
30 育成と地域に定着できる支援が必要。

31 ○小規模農家が6割以上を占めており、農地の集積や生産の効率化が必要。

32 ○人工林率が高く、高齢級の森林が多いことから、さらなる森林整備、皆伐・再
33 造林の実施が必要。

34 ○水揚量・金額は震災前より大幅に少ないことから、漁業者、水産加工業者の経
35 営の安定化が必要。

36 【具体的な取組】

37 ○新規就業の相談・受入体制の強化、研修や技術指導の充実などフォローアップ
38 による定着支援、将来の就業へ繋げるための体験学習等の推進。

39 ○農地の大区画化や汎用化、関係施設の改修、法人化による経営の高度化、ロボ
40 ット技術やICTを活用した超省力化、高品質生産のスマート農林水産業を普
41 及・推進。

42 ○木材の安定供給体制の確立、生産基盤となる林道等の路網整備とともに、皆伐
43 ・再造林などを進め、林業の成長産業化を推進。

1 ○漁協の青壮年部・女性部活動の活性化、漁業者・水産加工業者の経営安定化の
2 ために必要な資金の貸付等を推進。

3 (3) 地域の特性を生かした安全・安心な農林水産物の提供

4 【現状と課題】

5 ○地域農林水産物への信頼回復のため、安全・安心な農林水産物の供給や情報発
6 信、販路回復等の取組が必要。

7 ○競争力の高い園芸産地を形成していく必要。

8 ○資源が増加・大型化した多くの魚種の有効利用策の検討が必要。

9 【具体的な取組】

10 ○安全性に関する正確な情報発信やモニタリング検査、出荷制限品目の管理、認
11 証GAP取得に向けた支援等を推進。

12 ○「常磐もの」やカツオなどのPR、水産エコラベルの取得や先端技術を導入した
13 高鮮度化、操業の効率化等の取組促進。

14 ○地理的条件を活かした周年生産の拡大、県オリジナル品種やGAP、森林認証
15 等の認証制度を活用したブランド化、消費者ニーズに則した園芸作物等の導入
16 を推進。輸出の取組等多様な販売戦略や6次化商品の開発など付加価値を高め
17 販路回復を図る取組を推進。有機性資源の有効活用による土づくり、エコファ
18 ーマーや有機栽培等、環境への負荷を軽減した農業を推進。

19 ○木材の生産、加工、流通について、関係者の連携強化、ICTなど先端技術の活用
20 等による効率化・低コスト化、様々なニーズに対応した木材の安定供給体制の
21 確立を推進。

22 ○「ふくしま型漁業」の実現に向けた取組を推進。

23 (4) 地域の特性を生かした農山漁村の形成

24 【現状と課題】

25 ○農山漁村の多面的機能の発揮や頻発化・激甚化する自然災害に対する国土強韌
26 化等の取組が必要。

27 ○被害が拡大しているイノシシやカワウ等への対策が必要。

28 ○ほ場整備により生産性を高めていく必要。農業水利施設や漁業関連施設の適切
29 な更新・修繕が必要。

30 ○未利用の間伐材や農業水利等を活用した再生可能エネルギーの取組を進めてい
31 く必要。

32 【具体的な取組】

33 ○農村地域のコミュニティの維持・向上促進、住民共同の管理による農山漁村の
34 多面的機能を発揮する取組を推進。

35 ○保安林の指定し、治山施設等を整備することで、山地災害防止を推進。

36 ○児童・生徒を対象とした食やふるさとに対する理解促進、森林ボランティア活
37 動の支援等による県民参加の森林づくりを推進。

38 ○地域ぐるみによる耕作放棄地の発生防止を推進。

39 ○ほ場整備や農業水利施設などの長寿命化・耐震化等のハード整備、ハザードマ
40 ップ作成や地域住民への啓発活動等のソフト整備による農村地域の防災・減災
41 対策を推進。住民共同の管理活動による農山漁村のインフラ維持を推進。

42 ○木質バイオマスへの利用や農業水利施設を活用した小水力発電等を推進。